

「放射能の影響で外で遊べない福島県の子どもたちのための屋内公園
「ふくしまインドアパーク」の運営」事業

被災地福島で子どもが安心して遊べ、
地域の人々がつながるコミュニティの場として屋内公園を運営

放射能が不安で外で遊べない福島の子どもたちが
思いっきり遊べる場所を。そんな思いから、病児保育
などの子育て支援事業を展開する認定NPO法人
フローレンスが開設・運営する「ふくしまインドア
パーク郡山」が、2014年12月で3周年を迎えた。
震災の影響で地域の子どもや親同士のつながりが分
断されてしまっている状況の中で、屋内公園は安全
な遊び場というだけでなく、人と人をつながるコ
ミュニティの場として機能している。

子どもや親に遊びとふれあいの場を提供する
パークリーダーを育成

2011年の開園以来、入園者は累計37000人を超え、「年
間1万人の郡山の子どもたちを笑顔にする」という目標
は順調に達成されている。パークづくりに携わる被災地
支援事業部マネージャーの吉田邦彦さんは事業の手応
えを次のように語る。

「ふくしまインドアパークは郡山市のショッピングモ
ールの敷地内にあるので買い物かごに気軽に寄ることが
でき、地域の皆さんが毎日の生活の中に組み入れて利用
してくださっています。何よりうれしいのは、パークの中で
子ども同士が仲良くなっていったり、震災の影響で公園
デビューができなかったお母さん方がたくさんママ友を

つくっている姿が日常的に見られることです」

ふくしまインドアパークは約40坪と屋内公園としては
小規模ながら、定期的に遊具を入れ替えたり、日替わりプ
ログラムを実施するなど、6歳までの未就学児を対象に
飽きのこない工夫がなされている。そんなパーク運営にお
いて大きな役割を果たしているのが、保育士資格を持つ
施設スタッフだ。彼らはパークリーダーと呼ばれ、子ども
と一緒に遊んだり、読み聞かせやダンスなどのイベントを
行うほか、父母から子育てや友達づくりの悩みを相談さ
れることも多いため、お母さん同士が知り合えるように仲
を取り持つなど、親子でいつ来ても楽しめるように常に働
きかけを行っている。このような対応に向け、フローレン
スではスタッフの育成を重視しており、AJOSCの助成
を彼らのスキル向上を図る研修や資格取得のために活用
した。

「パークリーダーには、おもちゃコーディネーターやおも
ちゃ・子育てアドバイザーの資格取得をはじめ、前年度よ
り“ムーブメント”の研修を受けてもらっています。ムーブ
メントは、動きを通して身体・頭・心の調和のとれた子ど
もの発達を支援する教育法で、研修の成果として今年度
はこれを取り入れた、身体を動かして遊ぶイベントを開催
することができました。こうしたスタッフ育成への投資は、
子どもに充実した遊びの場を提供するだけでなく、親御



地元のおもちゃドクターらがボランティアでイベントを開催



読み聞かせなど、パークリーダーが毎日楽しいプログラムを実施



遊具を使って身体を動かして遊ぶ「ムーブメント」のイベント

さんとのコミュニケーションを深めることにも役立って
いると思います」と吉田さんは言う。ふくしまインドアパ
ークに毎月1000人近くもの来園者があるのも、パークリー
ダーと子どもや親との間にしっかりと信頼関係が築
かれているからこそといえるだろう。

日替わりでイベントを開催して
地域交流の場づくりをサポート

また、ふくしまインドアパークは遊ぶ場所というだけ
ではない。「コミュニティ創出の場」と位置づけ、日替わり
でイベントを開催している。地元郡山の英語の先生、体操
の先生、おもちゃドクター、本屋さんなどがボランティア
で開くイベントには多くの人が集まり、震災後途絶えが
ちであった地域交流の場として、子どもだけでなく大人
たちにも心の安らぎをもたらしている。また、こうしたパ
ーク運営に賛同する企業や個人からも、さまざまな形で支
援の申し出があり、地域を超えた人のつながりも生まれて
いる。

本年度は子育てママの支援を強化すべく、地元の専門
家やヒーリングスクールなどの協力を得て、赤ちゃんとお
母さんのためのイベントを新たに定期開催した。生後6ヶ
月までの赤ちゃんを対象にしたベビーマッサージや赤ちゃ
んヨガの教室をはじめ、月に1回「ママ友クラブ」を開催
して、医療保育士による育児相談や、マッサージ、エステ
などを行い、地元の子育てママたちに大好評だったとい
う。吉田さんも、「転勤や引っ越しの多い郡山ではママ友
を作るのも大変です。そんななか、小さなお子さんを持つ
お母さん同士が出会い、悩みを共有できる場になったの
では」と評価する。

さて、こうして地域の人々に親しまれてきたふくしま
インドアパークも、2015年3月いっぱいその役目を終え

担当者より



人材育成に投資でき
事業の発展へ
大きな力になりました

認定NPO法人フローレンス
被災地支援事業部
マネージャー
吉田邦彦さん

震災から年月がたち被災地への関心が薄れ、活動に対
する助成も少なくなってきているなか、前年に続いて支援を
いただいたことにとっても感謝しています。施設スタッフの
育成に投資できたことにより、本事業を単なる屋内公園運
営に終わらせず、地域のコミュニティを創出する活動へと
発展させることができました。今後も被災地のニーズに応
えて支援活動に取り組んでいきます。

る。地域の復興が進むなか、郡山市では市の事業として
新たに4カ所の運動施設の整備が進められており、これ
を受けての決断だという。「地域の皆さんとともに創り上
げてきたパークを終了することは残念ですが、震災直後
の子どもたちに安心して遊べる場所を提供するという目
的は果たしてきたと考えています。震災から4年が経ち、
復興のフェーズや被災者のニーズは変化してきています。
それに応じて別の角度から今後も被災地への支援に取り
組んでいきたい」と、決意を新たに語る吉田さん。

フローレンスは新たに、多くの待機児童を抱える仙台
に支社を開設し、現在都内を中心に展開している小規模
保育園の開園を計画しており、保育園の不足で働けず
いる親をサポートし、被災地の経済的な復興を継続的に
下支えしていきたいと考えているという。



ベビーマッサージのイベントは子育てママたちの交流の場